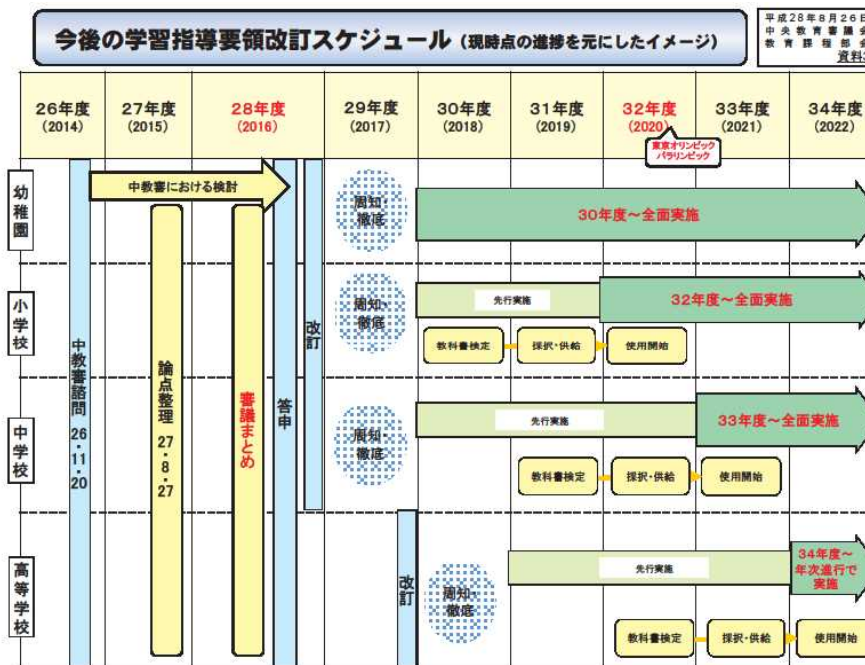


新学習指導要領について 小学校 図画工作科

徳島県教育委員会



解説p1～5

1 総説

1 総説

1-1 改訂の経緯及び基本方針

(1) 今回の改訂と社会の構造的変化

—社会に開かれた教育課程の実現—

・予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要。

(2) 何ができるようになるか—育成を目指す資質・能力—

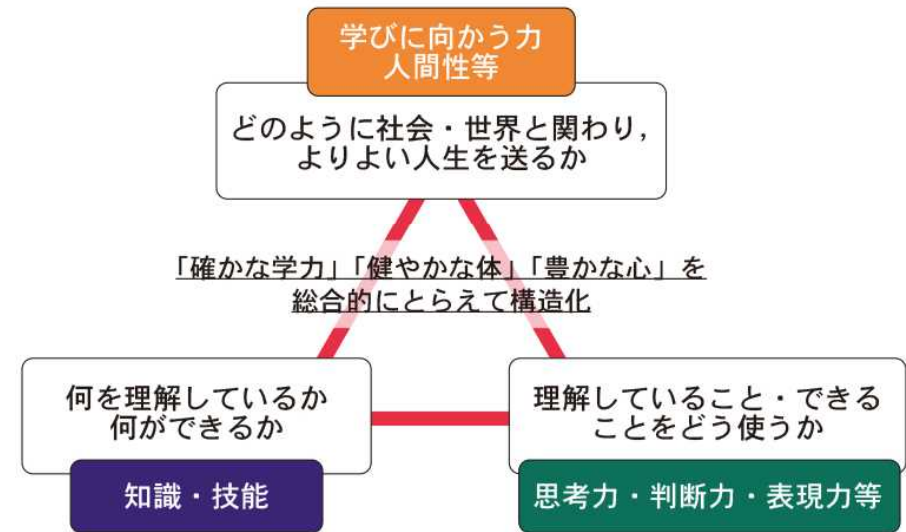
・各教科等において習得する知識及び技能は、それらが相互に関連付けられ、社会における様々な場面で活用できる知識として身に付けていくことが重要となる。そのために、育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

(3) どのように学ぶか

—主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善)—

・これまでの教育の成果 → 教育実践の蓄積 → 若手教員への引き継ぎ
→ 主体的・対話的で深い学びによる授業改善 → 「見方・考え方」

育成すべき資質・能力の三つの柱



(4) カリキュラム・マネジメント

—教育課程を軸とした学校教育の改善・充実—

- ・教科間連携が重要
- ・教育内容, 教育活動に必要な人的・物的資源等
→ 地域等の外部の資源の活用

(5) 何を学ぶか

—具体的な教育内容の改善・充実—

- ・言語能力の確実な育成
- ・理数教育の充実
- ・伝統や文化に関する教育の充実
- ・体験活動の充実
- ・外国語教育の充実
- ・情報活用能力(プログラミング教育を含む)
- ・現代的諸課題への対応
- ・道徳の「特別の教科」化(小H30, 中H31)

1 総説

1-2 図画工作科改訂の趣旨と要点

(1) 改訂の趣旨

現行学習指導要領

- ・創造することの楽しさを感じるとともに, 思考・判断し表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てる。
- ・生活の中の造形や美術の働き, 美術文化に関心をもって, 生涯にわたり主体的に関わっていく態度を育むこと等。

課題

- ・感性や想像力等を豊かに働かせて, 思考・判断し表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を相互に働かせながら育成すること。
- ・生活を美しく豊かにする造形や美術の働き, 美術文化についての実感的な理解を深め, 生活や社会と豊かに関わる態度を育成すること。

改訂の具体的な方向性

- ・感性や想像力等を働かせて, 表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう, 内容の改善を図る。
- ・生活を美しく豊かにする造形についての理解を深める学習の充実を図る。

(2) 改訂の要点

① 目標の改善

- ・生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成を一層重視。
- ・育成を目指す資質・能力を, 「知識及び技能」, 「思考力, 判断力, 表現力等」, 「学びに向かう力, 人間性等」の三つの柱で整理。
- ・図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「造形的な見方・考え方」を働かせること。
- ・育成を目指す資質・能力の三つの柱のそれぞれに「創造」を位置付け, 図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指す。

② 内容の改善
ア 表現領域の改善

「A表現」

(1)発想や構想に関する事項 → 「思考力, 判断力, 表現力等」

ア 造形遊びをする活動 → 材料や形や色からのアプローチ

イ 絵や立体, 工作に表す活動 → 表したいことからのアプローチ

(2)技能に関する事項 → 「技能」

ア 造形遊びをする活動 → 材料や形や色からのアプローチ

イ 絵や立体, 工作に表す活動 → 表したいことからのアプローチ

イ 鑑賞領域の改善

「B鑑賞」

(1)「思考力, 判断力, 表現力等」の観点から整理

・第5学年及び第6学年の鑑賞の対象に「生活の中の造形」を位置付け、生活を楽しく豊かにする形や色などについての学習を深める。

ウ [共通事項]の改善

「ア 自分の感覚や行為を通して, 形や色などの造形的な特徴を理解すること」などを, 「知識」として位置付け。

「イ 形や色などの造形的な特徴を基に, 自分のイメージをもつこと」などを「思考力, 判断力, 表現力等」として位置付け。

2 図画工作科の目標及び内容

2 図画工作科の目標及び内容

2-1 図画工作科の目標

1 教科の目標

(目標の構成)

柱書

(1)「知識及び技能」に関する目標

(2)「思考力, 判断力, 表現力等」に関する目標

(3)「学びに向かう力, 人間性等」に関する目標

※三つの柱で整理。

※(1)(2)(3)を相互に関連させながら育成。(順序性はない)

(柱書)

表現及び鑑賞の活動を通して, **造形的な見方・考え方**を働かせ, **生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

1 教科の目標

「**造形的な見方・考え方**」とは…

感性や想像力を働かせ, 対象や事象を, 形や色などの**造形的な視点**で捉え, 自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すこと。

「**感性**」とは…

様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに, 知性と一体化して創造性を育むもの。

「**想像力**」とは…

思いを膨らませたり, 想像の世界を楽しんだりすることが重要であることから, 感性とともに示す。(これまでは高学年で示してきた)

「**造形的な視点**」とは…

図画工作科で育成を目指す資質・能力を支えるもの。「形や色など」, 「形や色などの感じ」, 「形や色などの特徴」など

1 教科の目標(1)

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

○「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解する」について

→ 「知識及び技能」の「知識」

自分の視覚や触覚などの感覚、持ち上げたりする行為や活動を通して理解すること。

「知識」とは…

- ・形や色の名前を覚えるような知識のみを示すのではなく、
- ・自分の感覚や行為を通して理解したもの、
- ・「造形的な視点」「形や色など」「形や色などの感じ」「形や色などの造形的な特徴」が、活用できる「知識」として習得されたり、更新されたりしていくこと。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

○「材料や用具を使い、表し方を工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする」について

→ 「知識及び技能」の「技能」

「技能」とは…

材料や用具を使い、
表し方などを工夫して、
創造的につくったり表したりすること。
主体的に活動する中で身に付く。

「技能」は、豊かな思いに基づいた「思考力、判断力、表現力等」とともに働いて発揮される。

1 教科の目標(2)

(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

○「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え」について

→ 「A表現」, 「B鑑賞」を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」の双方に重なる資質・能力

「造形的なよさや美しさ」とは…

表現したり鑑賞したりするときに生じた感情や気持ちなどの、よさや美しさ、面白さや楽しさのこと。

「表したいこと」とは…

自分の夢や願い、経験や体験したこと、伝えたいこと。
動くものや飾るものなど、表したい、つくりたいと思うこと。

(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

○「創造的に発想や構想をし」について

→ 「A表現」を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」

「発想」とは…

形や色などを基に、
想像を膨らませるなどして、
造形的な活動や表したいことを思い付くこと。

「構想」とは…

どのように活動したり表したりするかを考えること。

(2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、**作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。**

○「**作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする**」について

→ 「**B鑑賞**」を通して育成する「**思考力, 判断力, 表現力等**」

「**作品など**」とは…

- ・見方や感じ方などを深めるための対象のこと
- ・自分が手にした材料
- ・友人が表現している作品
- ・美術作品や製作過程
- ・生活の中の造形, 自然, 文化財など

「**見方や感じ方を深めたりすることができるようにする**」とは…

よさや美しさを感じ取ったり考えたりし、
自分の見方や感じ方を深め、
自分なりに対象や事象を味わったりすることができるようにすること。

1 教科の目標(3)

(3) **つくりだす喜びを味わう**とともに、**感性を育み, 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い, 豊かな情操を培う。**

→ 「**学びに向かう力, 人間性等**」

「**つくりだす喜びを味わう**」とは…

感性を働かせながら作品などをつくったり見たりすることそのもの。

「**感性を育み**」とは…

児童の感覚や感じ方を一層重視することを明確にする。

※「感じる」と「感じ取る」の違い。

「**楽しく豊かな生活**」とは…

形や色などと関わり、一人一人の児童が楽しいといった心情を抱いたり、充実感を得たりするような豊かさを実感できる自分の生活のこと。

※**図画工作科**における児童の学習活動 → 学校生活 → 家庭生活 → 社会生活へ広がりをもつ。

(3) **つくりだす喜びを味わう**とともに、**感性を育み, 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い, 豊かな情操を培う。**

→ 「**学びに向かう力, 人間性等**」

「**創造しようとする態度を養い**」とは…

形や色などと関わり、自ら楽しく豊かな生活をつくりだそうとし、主体的に学習に向かったり、社会から情報を得たり、発信したりする、主体的に生きていく態度を養うこと。
社会と関わる中で学習に向かう主体性が育まれる。

「**情操**」とは…

美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心のこと。
図画工作科の学習を通して、よりよく生きようとする児童の調和的な情意の発達をねらいとして「豊かな情操を培う」と示す。

2 図画工作科の目標及び内容

2-2 図画工作科の内容

1 内容の構成

「**A表現**」「**B鑑賞**」〔**共通事項**〕から構成している。

「**A表現**」

造形遊び 1・2学年…材料
3・4学年…材料, 場所
5・6学年…材料, 場所, 空間の特徴
絵や立体, 工作…自分の表したいことを基に

造形遊び
絵や立体, 工作
鑑賞
複合題材

指導事項を全て押さえることが大切

※「**授業改善**」とは…

全て新しいことをすればよいわけではなく、同じもの(こと)を繰り返してやることでもなく、目の前の子供を見て、育成する資質・能力をふまえ、教師が創意工夫して授業をつくること。

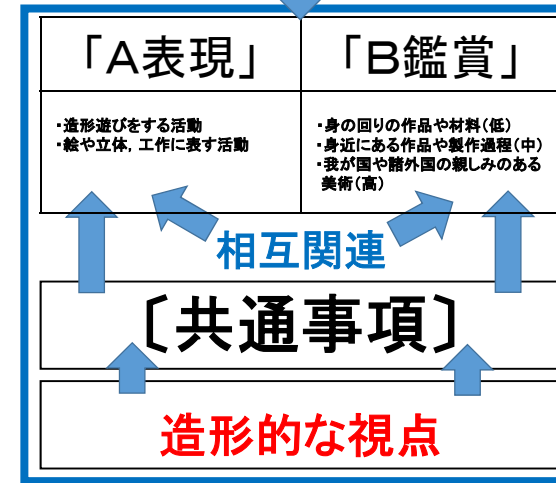
1 内容の構成

新	現行
<p>「A表現」 (1) 発想や構想に関する項目 ア 造形遊びをする活動を通して育成する「思考力, 判断力, 表現力等」 イ 絵や立体, 工作に表す活動を通して育成する「思考力, 判断力, 表現力等」</p> <p>(2) 技能に関する項目 ア 造形遊びをする活動を通して育成する「技能」 イ 絵や立体, 工作に表す活動を通して育成する「技能」</p> <p>「B鑑賞」 (1) 鑑賞に関する項目 ア 鑑賞する活動を通して育成する「思考力, 判断力, 表現力等」</p> <p>〔共通事項〕 (1) ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」 イ 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力, 判断力, 表現力等」</p>	<p>「A表現」 (1) 造形遊びをする活動に関する項目 ア 発想や構想の能力と活動の概要 イ 発想や活動の能力と活動の方法 ウ 創造的な技能</p> <p>(2) 絵や立体, 工作に表す活動に関する項目 ア 発想や構想の能力と活動の概要 イ 発想や活動の能力と活動の方法 ウ 創造的な技能</p> <p>「B鑑賞」 (1) 鑑賞する活動に関する項目 ア 鑑賞の能力と活動の概要 イ 鑑賞の能力と活動の方法</p> <p>〔共通事項〕 (1) ア 形や色などに関する事項 イ イメージに関する事項</p>

各領域及び〔共通事項〕

造形的な見方・考え方

児童が「造形的な見方・考え方」を働かせることが「深い学び」につながる



造形的な見方・考え方
感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくり出すこと。

「B鑑賞」の活動。
「A表現」につなげる。

〔共通事項〕
ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること(知識)
イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと(思考力, 判断力, 表現力等)

造形的な視点
「形や色など」、「形や色などの感じ」、「形や色などの特徴」など

2 各領域及び〔共通事項〕の内容

「A表現」「B鑑賞」の相互関連, 〔共通事項〕の浸透と指導を進めていくには、「造形的な視点」に基づいた「言語活動」が必要である。

「言語活動」は・・・

- グループでの話し合いだけでなく、
- 自己対話, アイデアスケッチもあてはまる。
- 型にとらわれない, 児童の実態に合わせた言語活動。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

3 指導計画の作成と内容の取扱い

3-1 指導計画作成上の配慮事項

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の**主体的・対話的で深い学び**の実現を図るようにすること。その際、**造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実**を図ること。

1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。

見通しを立てたり、振り返りの場面をどこに設定するか。

対話による言語活動をどこに設定するか。

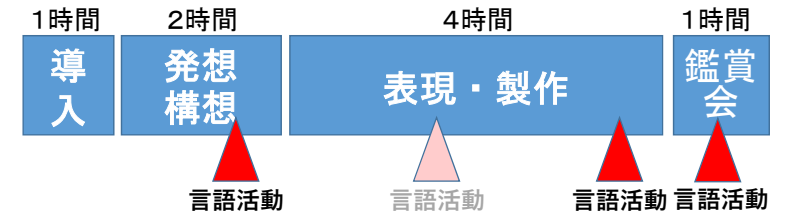
児童が考える場面、教師が教える場面をどう組み立てるか。

→ **題材のまとまりの中で授業改善を進める。**

授業改善において大切にしたいこと

「年間指導計画」と「題材の指導計画」を大切にすること。

※「題材の指導計画」



題材の指導の中のどこに言語活動を組み込むか

「造形的な視点」と〔共通事項〕から、**自分のイメージをもって意味や価値をつくりださせることが重要。**

「A表現」及び「B鑑賞」の関連

(2) 第2の各学年の内容の「A表現」及び「B表現」の目標については、**相互の関連を図る**ようにすること。ただし、「B鑑賞」の指導については、指導の効果を高めるため必要がある場合には、児童や学校の実態に応じて、**独立して**行うようにすること。

児童が表現したことを、自身で味わったり、友人と交流したりすることにより、表現が深まったり、広がったりするように配慮することが大切である。

独立した鑑賞

発達段階に応じて児童が関心や親しみをもてる作品などを選ぶ。作品や作家についての知識は結果として得られるものであること。言語活動を充実すること。

〔共通事項〕のAの指導

(3) 〔共通事項〕のAの指導にあたっては、次の事項に配慮し、必要に応じて、その後の学年で繰り返し取り上げること。

ア 第1学年及び第2学年においては、**いろいろな形や色、触った感じ**などを捉えること。

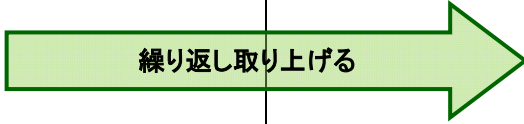



イ 第3学年及び第4学年においては、**形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさ**などを捉えること。

ウ 第5学年及び第6学年においては、**動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさ**などを捉えること。

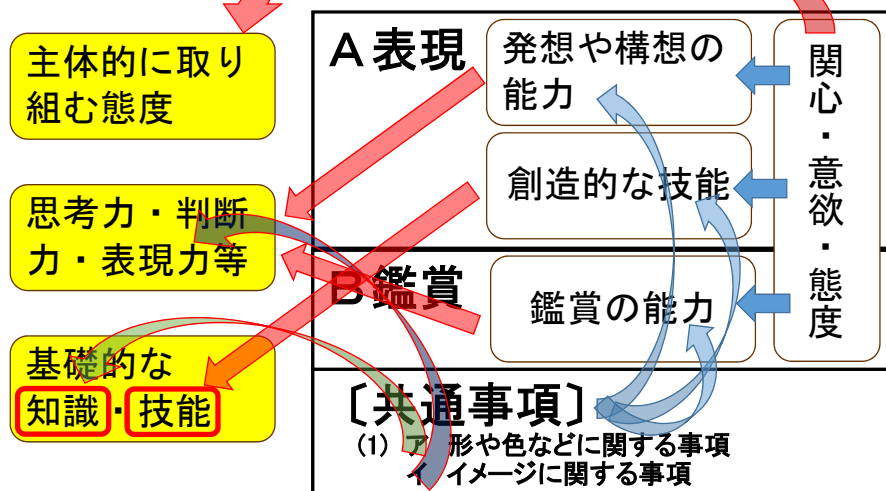
「A表現」の(1), (2)の関連と指導に配当する授業時数

(4) 第2の各学年の「A表現」については、造形遊びをする活動では、(1)のア及び(2)のアを、絵や立体、工作に表す活動では、(1)のイ及び(2)のイを関連付けて指導すること。その際、(1)のイ及び(2)のイの指導に配当する授業時数については、**工作に表すことの内容に配当する授業時数が、絵や立体に表すことの内容に配当する授業時数とおよそ等しくなるように計画すること。**

内容の取扱い(材料や用具)

1・2年生	3・4年生	5・6年生
土、木、紙、粘土、厚紙、クレパス、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など		
	木切れ、板材、 釘 、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、 金づち など	
		針金 、糸のこぎりなど

図画工作の資質・能力の関係性 学力の3要素との関係 (学校教育法第30条第2項)



教育課程研究集会資料

平成30年8月

新学習指導要領について 小学校 図画工作科

徳島県教育委員会